

目指す学校像 (ミッション)	不登校等、多様な問題を抱えた生徒の基礎学力・個性生活力を養い、社会的自立を実現するとともに地域の生涯学習機関として貢献できる学校。
本年度の重点目標	①生徒として望ましい授業態度の育成に努めるとともに、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、「わかる授業」実現をより推進する。 ②学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実を努め、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ③生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ、社会性を高め、規律ある明るい校風づくりを推進する。

年度当初				最終評価(3月)			
番号	評価項目	現状	具体的方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策
①	授業改善の取組	○授業に集中できていない生徒がいる。 ○授業に興味・関心・意欲を持っていない生徒がいる。	○教科書・ノート・筆記用具等授業に必要な物を必ず持参させる指導を繰り返す。(年次・教科担当) ○授業を受けるにふさわしくない態度を取る生徒には、繰り返し指導を行い、改善がみられない場合は、HR担任と当該年次が家庭と連携を図りながら、段階を踏んで指導する。(年次・生徒指導) ○各教科で、授業公開や研修会を通して、教員の共通理解を図り、各科目における基礎・基本を明確化し、指導方法を工夫して、「わかる授業」の展開を一層推進する。(教務)	○引き続き教員による「授業実態アンケート調査」と職員研修会の実施。 ○ 前回アンケートの疑問を検討・改訂し、 生徒への「授業アンケート」の実施。 ○学習態度改善指導を受けた生徒数の把握。	○約 90% の教員が、授業に必要な物を持参させる指導で、効果があったと回答。 ○約 96% の教員が、指導方法を工夫して、わかる授業を推進することが出来たと回答。 ○アンケート結果から、生徒の自己に対する質問項目について、 真面目に学習に励む生徒層が厚く なっている。そのため、教員の授業に対する要求のレベルが、高くなってきている。 ○定期考査の大幅遅刻者、早退者を調査。 前期中間7名 前期期末11名 後期中間10名 後期期末4名 定期考査の大切さを生徒に認識させ、大幅な遅刻を繰り返す生徒を指導し、その数を減少させた。 ○今年度も、 6月、9月、11月の3回、授業公開期間 を設け、教員間の授業公開を奨励し、各教員が指導方法の工夫や、各教科における基礎基本の明確化を図ることを通じて、「 わかる授業 」の推進が図られた。また、教務部主催による、 評価に関する職員研修会 や、 研究授業 を実施し、 指導と評価の一体化 を図ることができた。	B	○引き続き、授業改善への取り組み… 生徒の質の変化への対応 — 授業公開の継続と拡充 — 職員研修会の実施 — 他の中学校、高校の教員向け授業公開 — 生徒・職員への授業評価アンケートの継続
②	開かれた学校づくりの推進	○本校の特色や教育活動 広報が、改善されつつはあるが、まだ広く周知されて いるとは言い難い。 ○特別講座や受講生のニーズに相当程度応えているが、 同一講座を複数回受講する方が存在する。	○本校HPの 継続的な更新 や その他の広報媒体を通して 広く、地域の人々に本校の特色や教育活動について理解を深める努力を 継続 する。(教務・渉外) ○中学校・高校等と継続的に本文の教育成果等を発信し、生徒募集に生かす。(教務) ○学校評価懇話会委員の提言の反映を図る。(教務・渉外) ○ 学校行事(勾玉祭等)への小中学生の招待。 ○特別講座における現在の高いレベルの維持・継続を努めるとともに、新規特別講座の開設を検討し、 具体化する。 (教務)	○本校HPの 検索数の推移 ○ 新規広報媒体の検討・開拓 ○昨年より引き続き、 調査対象・内容を再検討した上で、 地域アンケートの実施。 ○中学校・高校が間での配布資料等の改善、および説明対象先の精選 ○評価懇話会委員による評価。 ○ 勾玉祭来校者の内訳と人数。 ○ 受講内容・開催講座等、 受講生からのアンケート調査と集約。	○月平均、約 1000件のアクセス があった(9月からの調査)。9月 4472→10月 5470(+998)→11月 6528(+1058)→12月 7711(+1183)→1月 8101(+390)→2月 9500 (+1399) 昨年引き続き、 羽生駅へのポスター掲示 ○昨年引き続き、特別講座(市民講座)を受講した方に加え、今年度は 懇話会で提案のあった、本校在籍在在の方へのアンケート を実施した。近年も、以前の羽生高校の生徒像から、 良い方向へ変わってきている、 という意見を得た。 ○ 学校案内の改訂と、ポスターの刷新。 学校案内の配布対象先の拡充(PTA・後援会の支援総会で配布)。部活動や学校行事、60周年記念事業を中心記事とした、「 羽生便利トピックス 」を羽生便りとして 5回 発行した。 ○昨年度の評価懇話会で提言していた内容のうち、 本校在籍在在者へのアンケート調査の実施、ホームページ検索件数、関係機関との連携 を基盤資料として自己評価シートが作成できた。 ○市内の中学校、生徒全員にチラシを配布した結果、 勾玉祭来校者数が 前年より増加した。 昨年度304名 → 今年度 384名 ○昨年度同様、受講生にとって満足度の高い特別講座を実施した。 今年度実施の講座 商業科 2講座 英語科 2講座 (昨年度と同じ講座数、講座名)	B	○情報発信機能の改善と質の向上 — 外部への情報提供方法の改善 (HP、学校案内、ポスター等) — 引き続き中学校、高校訪問の継続 — 各種外部アンケートの回収率の向上と結果の公表 ○外部評価の適切な活用 — 学校評価懇話会における提案の速やかな反映 — 当該システムおよびそこから得られる本校の教育課題の共有
③	生徒指導・教育相談の充実	○対人関係形成能力が十分に身につけていない生徒がいる。 ○単位制の特色を履き違えて、易きに流れている生徒がいる。 ○基本的な生活習慣が身につけていない生徒がいる。	○昨年と同様、教育相談における職員研修会を通して、生徒の個別指導を充実させるとともに、関係機関との連携を強化する。(教育相談) ○ 単位制に関するガイダンス機能を強化する。 (教務) ○履き物及び服装指導を通して、生徒にけじめをつけさせる。(生徒指導) ○校舎内外の巡回を実施し、授業に積極的に取り組む姿勢を身につけさせる中で、特に転入生に対する指導を充実させる。 また、関係機関と連携し、講習会等を実施し、生徒の規範意識を高める。 (年次・生徒指導) ○特別活動(生徒会・部活動)の活性化を図る。(生徒会)	○ 個別相談件数の把握と、相談前後での生徒の変化の継続観察。 ○ 生徒の履修・修得率の変化 ○けじめ指導・巡回指導の効果。 ○問題行動の発生件数の把握と分析。 ○生徒の活動状況調査と集約。	○生徒・保護者の相談件数、内容等について 毎月職員会議で報告 され、情報の共有化を図ると共に資料は毎回回収し、情報漏洩に配慮した。相談内容に関しては、年次や教育相談部で協議し、その後の当該生徒の指導に役立てた。また、当該生徒の観察を継続した。さらに今年度も、具体的な方策にある、 関係機関(中学校、進路指導教室等)との連携を強化 し、指導上必要な情報の収集に努めた。 ○今年度末まで在籍した生徒の、今年度における全科目数に対する 履修率は79.5%、修得率76.1% であった。 ○登下校時の声かけ指導を通して、生徒のあいさつ・マナーの向上に努めた。 ○クリーン週間、指導部巡回を通して、昨年度から比べて、一段と問題行動が減少した。 (60%減少) 昨年度 20件(37名) → 今年度 9件(17名) 転編入生については、今後も早く本校に適合できるよう、指導を継続する。 関係機関(警察)と連携し、非行防止教室を実施 具体的、身近な事例を基にした内容で、 生徒の規範意識向上の一助 となった。 ○全国大会出場部活動 4部 (軟式野球部・女子バスケ部・陸上部・柔道部) 全国大会でも、選手達が持つ力を十分に發揮し、元気な学校づくりに貢献した。	B	○引き続き教育相談の充実 — 職員研修会の充実 — 関係機関との連携強化 ○ガイダンス機能の充実 — 履修・修得率を継続的に観察し、生徒1人1人に適時かつ的確なガイダンスを実施 ○目に見える生徒指導の実施 — 巡回指導の継続 — 関係機関(警察等)との連携 — 校外における生徒の活動機会の充実